

ワタナベグループ

M&Aで新たに7社体制、前進加速

「継続は力なり」を総力で示す

フード&エンジニアリングの総合企業

渡辺食品機械を軸としてワタナベ冷機、ワタシヨウ、ワタシヨウフーズ、マシヨウがグループの牽引力となつて、市場拡大を図る。一昨年5月1日に、調冷熱ならびに食品流通総合化学事業を展開する通称、ワタナベグループはコロナ禍第2ラウンドとなった昨年10月1日、新たに業務用厨房設備機器・中古厨房設備の販売および買取を手掛ける「厨房ファクトリー」をM&Aによりグループ化し新たに7社体制として、さらなる前進を目指す。従来のワタナベグループ

『フード&エンジニアリングの総合企業』を謳うワタナベグループ。2021年は新たに厨房ファクトリーを加え、全7社体制となった。

そのグループ構成は「渡辺食品機械」が冷凍機・空調機器、資材を販売する総合冷凍熱機。ワタナベ冷機は低温を主体とする冷凍・冷蔵・店舗設備設計・施工業者。ワタシヨウは業務用酒類食品卸販売。ワタシヨウフーズは業務用食肉加工製造・水製造販売。マシヨウは夜間の業務用酒類・食品・水販売・通販事業。そして不動産・総合ビル管理の「ナベビル」に加えて厨房設備機器販売(新品・中古)・設置を手掛ける「厨房ファクトリー」となる。

一昨年の代表交代で現在グループは渡邊正一会長がナベビルの社長を務めるほか、設備関連を長男・伸一郎社長、食品・食材関係は次男・伸隆社長が掌握。加えて渡邊家親族(正一会長の甥)となる西田壮一氏ならびに西田潤氏を要職へ付けて盤石の体制を整える。

約一年半に渡るコロナ禍にあってサッポロロールの外販では国内No.2と称され、グループ牽引力となつてきたワタシヨウは昨年7月の決算を、4月以前の余剰もあり、売上は減少したもののクリア。今期についても現状、黒字化を目指すという。



渡邊 正一 会長

長がナベビルの社長を務めるほか、設備関連を長男・伸一郎社長、食品・食材関係は次男・伸隆社長が掌握。加えて渡邊家親族(正一会長の甥)となる西田壮一氏ならびに西田潤氏を要職へ付けて盤石の体制を整える。

約一年半に渡るコロナ禍にあってサッポロロールの外販では国内No.2と称され、グループ牽引力となつてきたワタシヨウは昨年7月の決算を、4月以前の余剰もあり、売上は減少したもののクリア。今期についても現状、黒字化を目指すという。

「継続は力なり」とし、一概に激震かとの想像に對し、グループの総合力でも減損程度に抑え込んだ現状を示した。

その覚悟については昨年の聞き取りでも渡邊伸一郎社長が「仮にこれまで積み上げてきたものが一時的に消滅したとしても再びグループの総力を結集して積み上げていく」と強い決意を語っている。



新設した第3倉庫概観



可動ラックを導入した倉庫内部

一貫して供給責任を全う 道央など潜在市場へも深耕

ワタナベグループの原点である渡辺食品機械(社長 渡邊伸一郎氏、本社 札幌市中央区南一条東4丁目7番地)の最大使命として渡邊伸一郎社長は「北海道という地域性を考えた時、いかなる場合でも供給責任を全うすることにある」と断言する。振り返れば10年前となる東日本大震災



渡邊 伸一郎 社長

においても見事にその責務は実行された。「決して現場は止まらない。仮に本州からの機器調達が滞れば、たちまち影響が出る。そのためには日頃から十分に対応可能な量をストックせざるを得ない」とこの度、厨房ファクトリーの拠点として3カ所目となる第3倉庫を厨房ファクトリーに隣接して建設した。建坪は150坪ながら6月という高天井に可動ラックを据え付けたこと

で有効スペースとしての延床面積は300坪相当に匹敵する。

近年、同社、同グループでは社内事業コンテンツが拡充しており、果たしてこの先、新たな分野を取り込むことも想定される。「箱がなければ贈れないが、箱を探することも建てることも、そして中身を動かすこともグループ連携で一気通貫を実現できる。但しランニングコストを考えれば、借り物でない自前の持ち物の必要がある(渡邊伸一郎社長)とは、まさにグループ力

最大の強みといえる。さて渡辺食品機械の今については既に5年ほど前から計画されている道の案件が粛々と実行されているという前提を示したうえで、同社においてもコロナ禍中により変容した新たな集積需要を受けてスーパーマーケットなどが好調さを維持。これに伴う新店、改修改装などの需要が活況で冷凍機関係、シヨウケース関係も好調な出足と積極的な取り組を見せる。

「当面は2030年の新館北斗から札幌間まの幹線幹線が軸となる。この道経済の軸となる。建設需要は一部でムラ(ホテルなどの観光市場がコロナ禍で停滞感)もあるものの、着実に計画案件は進んでいる。当社においても足元の需要



厨房ファクトリーの営業拠点
⑥と厨房ファクトリーの内観
⑦ランドリーの内観

昨年10月1日にM&Aを完了。本年4月1日には新天地での事業を開始した厨房ファクトリー(取締役会長 渡邊正一氏、代表取締役社長 渡邊伸一郎氏、所在地 札幌市西区八軒10条西1丁目1番41号)は、店舗そのものがワタナベグループの事業領域を知ることのできるショーケースの役割も担う。今回の改修移転に際しては敢えて成長著しいコインランドリー事業の店舗も併設。両者は同系色で街並みに合うようスタイリッシュに一体化デザイン化された店舗で、見聞違うほど。従来、中古厨房機器の販売に力を入れてきた厨房ファクトリーは、今後、新品につい

ても扱いを増やす構えだ。そもそも厨房ファクトリーは地銀大手の北海道銀行系列企業でその需要先として老人介護施設や大手観光ホテルといった顧客先を持つ。ここにもワタナベグループとしてのシナジーによるメリットが生まれることは明白だ。同時にワタシヨウの客先との取引も以前よりあり、いわばワタシヨウの販売先への厨房設置を行う知縁もあった。ちなみにコインランドリーの運営は厨房ファクトリーが、管理はナベビルが担い、事業者への取込みも行っていく。

厨房ファクトリーは現状、年商3億円と事業規模が渡邊伸一郎社長は「当面、現状の倍は目指す。そのファクターは十分にあり」とする。

新生・厨房ファクトリー

ワタナベGrのショーケース

【渡辺食品機械の事業領域】

渡辺食品機械の事業領域については全道の冷凍設備工事店・空調設備工事店との強力な連携によるルート販売を担う【機器営業】、スーパー・食肉加工・レストランおよび各種厨房などをターゲットに新規ユーザーの開拓を通じてマーケットの拡大を目指す【特販営業】、旧・三洋電機グループの三洋アキアが2009年に北海道からのランドリー事業撤退を機に同社が事業継承し、業務用ランドリー製品を軸に医療施設・介護施設・ランドリー分野などに営業展開を図り、高齢化社会・介護社会を脱んだ商品ラインナップで販路拡大を行う【テクノランドリー】、2010年からは建築資材を扱う部門として新設された【建築資材部】で構成される。なかでも機器営業、特販営業は心臓部。他方でランドリー及び建築資材の両部門は、さらに同社の裾野を拡大する「呼び水」でもある。

またトピックスとして「人材は人財」との観点から定期採用は予定通り進めるとともに、社内での人材育成にも注力している。その一方で先頃は今年60歳で定年を迎えた業務管理部のベテラン社員を、その功績から新たに役員へ選任し、さらに雇用期間を延長した。これは渡邊社長の一定の年齢になっても、こうして役員となり会社に必要とされる人材がいることを若手社員に示したい。そして希望を持ち、安心して働ける環境を提供したいとの思いがある。

定年迎え 役員へ昇格

またトピックスとして「人材は人財」との観点から定期採用は予定通り進めるとともに、社内での人材育成にも注力している。その一方で先頃は今年60歳で定年を迎えた業務管理部のベテラン社員を、その功績から新たに役員へ選任し、さらに雇用期間を延長した。これは渡邊社長の一定の年齢になっても、こうして役員となり会社に必要とされる人材がいることを若手社員に示したい。そして希望を持ち、安心して働ける環境を提供したいとの思いがある。